



トロントの風

トロント補習授業校 学校だより
令和6年7月6日 No.13
校長 近藤 仁巳

トロント補習授業校から羽ばたく先輩をお招きしました（高等部教育講演会）



6月29日(土)に、本校に馬場舜(ばばさとし)氏、西村加奈子(にしむらかなこ)氏(西村氏はビデオレターで)をお招きし、「教育講演会(高等部)」を開催しました。お二人とも、トロント補習授業校の卒業生です。

馬場氏は現在、当地の大学院生(博士課程)として航空宇宙研究所で研究を進めておられます。日々の研究活動、院生に必要なこと、これまでの取り組みでとても役に立ったことなど、スライドを使い具体的にお話してくださいました(紙幅の都合上、記述できず残念です)。

馬場氏はカナダで生活される中で、日本人としての発言を期待される場面が少なくなかったとのこと。自分も世界各国から集う人々と同様に、自国の特色、日本の文化に誇りをもって意見を述べたいと強く感じられたとのことでした。馬場氏にとっての補習校は、友達に会える、日本の授業も受けられる、ということに加えて、日本のことをよく知り、受けとめ、誇りを育む機会を得られること、そこに補習校に通い続ける意味を見出しておられたのだと思います。

「まずはやってみること」→「根気強く取り組み続けること」→「使えるリソースは何でも積極的に活用すること」→「継続の結果としてできた喜びを味わうこと」といったステップで、思いを実現することの大切さを、ご自身のあゆみをもとに語られました。

西村氏は日本の大学へ進学され、ご卒業後は生命保険会社でのシステムエンジニアを経られ、現在は日本企業でコンサルタント業務に従事しておられます。ビデオ画面を通して、カナダでの生活で得られたスキル、そして英語力等、獲得してきた複数の力が、置かれた環境での自身の道を広げることにつながっていったと教えていただきました。ご自身の体験をもとに、今、頑張っていることは、これから歩む日々の中で、必ず役に立つ時が来るということを力強くお示しいただきました。

西村氏からは、帰国して日本の大学へ進学する本校生徒への具体的なご助言をいただける機会もあり、帰国する生徒に取りましては特に、強い応援団としてお力添えをいただけています。

お二人の先輩から生徒たちに、力強いエールをおくっていただきました。並大抵のご苦労ではなかったと存じますが、後輩の生徒たちには、自分も補習校に通い続け、興味のあることに向けての努力を継続できるとしたら、目の前で輝いておられる先輩たちのようになれるのかもしれない…と勇気をいただきました。保護者の方々にもご参加いただきました。誠にありがとうございました。

広い廊下を活用しています（幼稚部）



カナダにも梅雨のような時期の存在を感じさせる日でしたが、ぬれた校庭ではなく、広い廊下を活用して、幼稚部年長のはら組、もも組では、紙飛行機をつくってとばす活動に取り組みました。はじまりのうた、絵本「ひこうき」読み聞かせ、飛行機を折る、名前を書く、みんなで飛ばす…といった一連の活動です。山折り、谷折り等、丁寧に、うまく折ることができるようになってきています。

話をよく聞くこと、自分で挑戦すること、そして、できない時には助けを求められることなども活動を通して指導しています。遠くへ飛ばすために翼のバランスや飛ばし方をあれこれ考えて、何度も試しながら楽しむことができました。

ばら組



もも組

学級担任変更のお知らせ

小学部2年1組担任、長崎麻里は、7月6日(土)の授業日をもちまして退職いたします。
7月13日(土)からは、**板木 萌(いたき めぐみ)**が新担任として、2年1組を担当いたします。
どうぞよろしくお願いたします。